

# <農民のくらしと人びとの団結>

(教 P. 74、75)

**史料①** 『政基公旅引付』(1) 文亀4 (1504) 年2月16日条  
16日雨。大木村と船淵村の番頭が来た。昨年の干ばつのため御百姓が多く餓死しています。そのため、蕨を採ってかろうじて命をつないでいましたが、これを盗む者がいて、食物が無くなってしまうと死んでしまうので、見張り番をおくことにしました。昨夜盗む者があったので、追いかけたところ、瀧宮神社(2)の巫女(3)の家に逃げ込みました。中に入ってみましたら、巫女の2人の息子が犯人でしたので、かばう母親と息子2人を殺害しました。ご報告します。(政基の感想) 地下沙汰(4)だから仕方がない。  
南無阿弥陀仏南無阿弥陀仏。

**史料②** 『政基公旅引付』文亀元 (1501) 年9月23日条  
和泉国の守護細川氏の家臣と周辺の諸郷の農民1000人ほどが、武装して日根野村に侵入してきた。政基の家臣と入山田村、日根野村の農民が200人集まって、侵攻軍を撃退した。  
隣村の村が、日根荘を攻撃したことについて、入山田村は、上郷へ抗議した。返事は、根来衆(5)が侵入してきたと守護方が出陣命令を出したので出陣した。しかし、相手は根来衆ではなく、御本所様(6)だったので、戦闘をやめて引き返した。以後このようなことはしないということだった。

(1) 『政基公旅引付』=前関白九条(藤原)政基が日根荘に来たときの日記。

(2) 瀧宮神社=入山田村の中心の神社。寄合にも使われた。

(3) 巫女=神に仕える女性。

(4) 地下沙汰=農民の掟に基づく法的行為。

(5) 根来衆=紀伊国(和歌山県)の根来寺(真言宗)の武力集団。和泉国の守護と敵対関係にあった。

(6) 御本所様=ここでは、九条政基のこと。

ひねのしょう いずみさのし  
日根荘＝現在の大阪府泉佐野市（関西国際空港の所在地）にあった荘園。代々、  
摂政や関白を出している九条家くじょうが荘園領主であった。はじめ鶴原・  
井原いはら・日根野ひね・入山田いりやまだの4カ村あったが、守護方の侵略で、日根野村  
（西方にしがた、東方ひがしがた）と入山田村（土丸つちまる・大木おおぎ・菖蒲しょうぶ・船淵ふなぶち）の2カ  
村を残すのみとなっていた。

問 史料①、②を読んで、5W1Hにまとめてみよう。

史料①

いつ(When)…

どこで(Where)…

だれが(Who)…

なぜ(Why)…

何をした(What, How)…巫女と息子を殺害した。

史料②

いつ(When)…

どこで(Where)…

だれが(Who)…

なぜ(Why)…

何をした(What, How)…侵攻軍を撃退した。

1年 組 番 氏名

---